

なみおか移住フォーラム

～ 浪岡をくらしの拠点に～



2024年2月10日(土) 13:30~15:00 浪岡中央公民館1階ホール

なみおか移住フォーラム

～浪岡をくらしの拠点に～

なみおか移住フォーラム
～浪岡をくらしの拠点に～
皆さんの参加をお待ちしています!!

元気な未来へ!!!
2024年2月10日(土)
13:30~15:00 90分
浪岡中央公民館1F 大ホール

内容

- 市人口動態、移住実態について | 浪岡振興部長 錦山 公彦
- 市の移住支援制度について | 青森市移住コーディネーター 黒竹 健司氏
- 浪岡を移住先に選択してもらうために必要なこと | (クロストーク) パネリスト: 黒竹 健司氏、artstudio tete代表 石岡有佳子氏
- アドバイザー: 青森中央学院大学 教授 竹内 紀人氏

会場とのディスカッション

講師プロフィール等

- クロストークアドバイザー
青森中央学院大学 経営学部教授 竹内紀人氏
- 講演講師・クロストークパネリスト
青森市移住コーディネーター 黒竹健司氏
- クロストークパネリスト
artstudio tete 代表 石岡有佳子氏

主催: なみおか未来創造会議 問合せ: 地域づくり振興課 0172-62-1147

なみおか移住フォーラム
～浪岡をくらしの拠点に～
皆さんの参加をお待ちしています!!

元気な未来へ!!!
2024年2月10日(土)
13:30~15:00 90分
浪岡中央公民館1F 大ホール

内容

- 市人口動態、移住実態について | 浪岡振興部長 錦山 公彦
- 市の移住支援制度について | 青森市移住コーディネーター 黒竹 健司氏
- 浪岡を移住先に選択してもらうために必要なこと | (クロストーク) パネリスト: 黒竹 健司氏、artstudio tete代表 石岡有佳子氏
- アドバイザー: 青森中央学院大学 教授 竹内 紀人氏

会場とのディスカッション

講師プロフィール等

- クロストークアドバイザー
青森中央学院大学 経営学部教授 竹内紀人氏
- 講演講師・クロストークパネリスト
青森市移住コーディネーター 黒竹健司氏
- クロストークパネリスト
artstudio tete 代表 石岡有佳子氏

主催: なみおか未来創造会議 問合せ: 地域づくり振興課 0172-62-1147

【津軽新報 2024年2月1日付(木) 2面に掲載】

【配布したチラシ】

若い人の定住促進を
なみおか移住フォーラム開く

青森市のなみおか未来創造会議伊藤男会長が10日、浪岡中央公民館でなみおか移住フォーラムを開いた。地域住民ら約70人が参加し、地域へ移住、定住の促進に向け、知恵を出し合った。

なみおか移住フォーラムは、浪岡地域の将来像の实现に向け、会員が自主的に協議し事業を展開する市民団体で、地域住民が住み着くのを受け入れるため、普段から機運を高めていきたいとあきつ。

はじめに青森市浪岡振興部長の錦山公彦が青森市の人口動態、移住実態について説明した。それによると、浪岡地区の人口は、平成17年で2万1146人、令和5年間で1万6971人で、18年間で4000人、年平均230人減少しているという。

市はこの状況を打破するため、移住定住施策を強化し、令和4年の市の移住者は125人、20代、30代の若い人が多く、地元Uターンと他県から来たUター

ン、Jターンとが半々の割合と報告。市内の企業に就職する人もいる。リモートワークで都会の仕事をする人も一定数いる。新しい仕事を創る。収益性の高い仕事を浪岡でやるケースがあるという。地域おこし協力隊として浪岡地区に移住し、現在市移住コーディネーターを行っている黒竹健司さん、Uターン経験があり市内で起業している石岡有佳子さん、青森中央学院経営法学部教授で人口減少問題に詳しい竹内紀人さんの3人が浪岡を移住先に選択してもらうために必要なことをテーマに語り合った。

「市人口動態、移住実態について」浪岡振興部長 錦山 公彦
「市の移住支援制度について」青森市移住コーディネーター 黒竹 健司氏
「浪岡を移住先に選択してもらうために必要なこと」(クロストーク) パネリスト: 黒竹 健司氏、artstudio tete代表 石岡有佳子氏
アドバイザー: 青森中央学院大学 教授 竹内 紀人氏
会場とのディスカッション

講師プロフィール等

- クロストークアドバイザー
青森中央学院大学 経営学部教授 竹内紀人氏
- 講演講師・クロストークパネリスト
青森市移住コーディネーター 黒竹健司氏
- クロストークパネリスト
artstudio tete 代表 石岡有佳子氏

【津軽新報 2024年2月17日付(土) 2面に掲載】



1 会長あいさつ

(なみおか未来創造会議
会長 伊藤 芳男)

皆さん、こんにちは。今日はご参加いただきありがとうございます。

今日の「移住フォーラム」のことを、ある人に話したら、「浪岡はムリだ、なにも無い、仕事もない」と、言われました。

何も無いとは人を引き寄せるだけの魅力の事だと思いましたが、本当に残念に思いました。

更に、「それって人の奪い合いですね?」と、これも移住にたいして否定的な発言でした。

まあ、どれも正解かもしれませんが、皆さん、考えてみましょう。

先ほど入口で渡したチラシをチョット見てください。何か感じるもの、気が付いたことありませんか。何も無いでは無く、青森県の地図の中心に浪岡の街並みが描かれています。そうです、浪岡は青森のほぼ中心に位置し、交通の要所になっています。都市機能も整っていますし、山にも、海にも近く、他の市にも近い、東京にも近い、こんな便利な地域は無いと、私は思っております。良いところを、今あるところを伸ばしていきたいものです。

さて、話は変わって、昨年11月に浪岡中学校の生徒さんに協力頂き、アンケートを実施しましたので一部紹介します。

浪岡地区が住みやすいと感じる回答が75%を占めておりました。これは市の市民意識調

査より非常に高い数値になっております。一方で、将来浪岡に住み続けたいですか、の間では、7%まで下がりました。これが現実で、一度は大都市や住んだことのない街で生活してみたい。そんな将来の夢を叶えてやるのが大人の責任ですが、少し寂しくないですか。

このとおりに推移するならば、毎年100人が卒業すると、7人しか浪岡に残らないことになります。これでは、黙って何もするなど言われなくても、そうはいきません。

お子さんやお孫さんが「帰って来たいと思われるふる里、元気なふる里」を残すために、浪岡地区の地理的優位性や地域と独自の魅力をもとに、津軽エリアのベッドタウンとして、県外・地域外からの移住を促進し、若い世代が定住、活躍してくれるよう、地域をあげて気運を高めることを目的に開催するものです。

今日のフォーラムはその第一歩で、定住、移住の促進に向け、なにか不足で何が支援できるかを考える機会となっております。

来年度、市振興部では、移住体験事業、空き家リノベーション活用(検討会)等を企画しております。

我々未来創造会議も参加・協力し一過性で終わることなく結果を求めていくことをお約束し、挨拶いたします。



2 「市の人口動態、移住実態について」

(青森市浪岡振興部 部長 舘山 公 氏の講話)



浪岡では… 人口 (4/1現在住民基本台帳)

H17年 21,146人
 H27年 18,821人
 H31年 17,936人
 R 5年 16,971人

*18年間で△4,175人
 年平均 △230人 減少が続く

浪岡では… 社会減 (転入ー転出)

H27年 △118人
 H31年 △ 48人
 R 4年 △ 15人

徐々に改善の兆し
 ⇒社会増に転換する可能性も

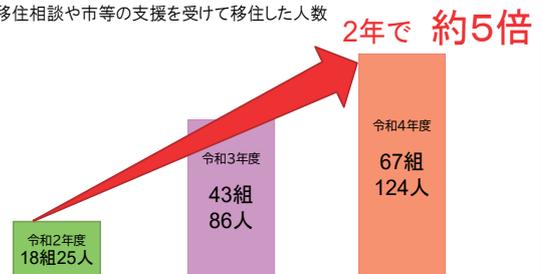
浪岡では… 出生数 (住民基本台帳)

H27年 126人
 H31年 108人
 R 4年 86人

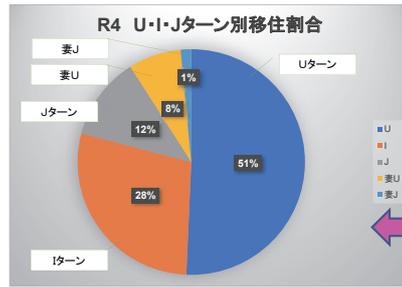
*現在、児童数**685人**
 *今年生まれた子が入学するR12は 600人切る見込み

市の移住施策の成果「移住者数」

※移住相談や市等の支援を受けて移住した人数



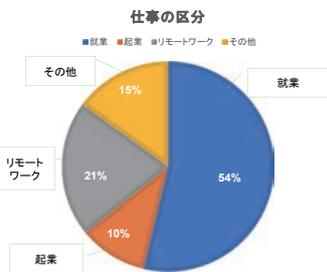
青森市の移住実態R4-③ U・I・Jターンの割合



💡 Uターンが半数を占めているものの、I・Jターンも40%以上と、増えてきている傾向。



青森市の移住実態R4-④ 働き方



💡 移住後の仕事別では、市内企業・事業所への就職が半数以上を占めているが、
 ・リモートワーク21%
 ・起業 10%など
 多様な働き方での移住者が一定数いる。

浪岡の移住施策 方向性をどうするべきか

*9/10付東奥日報で竹内教授が解説したとおり、産業構造で若者が半減している中、おいらせ、六戸のような地の利を活かした人口の吸収が必要。

他の県庁所在市は、自県内の受け入れ先として周辺から流入するため、青森市ほど減少がひどくない。
 (次ページ)

浪岡地区では、周辺自治体も含め吸収(移住者を増や)し、生活人口(夜間人口)の増を図る。



浪岡の戦略・キーワード…「地の利を活かす」

- 津軽エリアのベッドタウンとして、エリア内からも人口を吸収。
 若者・家族連れの移住を促進。

総務省では、地方移住者1人あたりの年間消費額を約125万円と試算しており、これは外国人旅行者の8人分、国内旅行者(宿泊)の25人分、日帰り旅行者の81人分に相当する直接的な経済効果がある。 2019/12/20





3 「市の移住制度」

(青森市移住コーディネーター 黒竹 健司 氏の講話)



青森市の移住支援制度と事業の紹介(令和5年度 取組事例紹介)

令和6年 2月10日
なみおか移住フォーラム 登壇資料
青森市移住コーディネーター
黒竹 健司

現在の活動

青森市移住コーディネーター

- 青森市で地域おこし協力隊員として3年間活動した経験・知見を活かして、青森市の移住施策や協力隊員の活動サポートをおこなっています。
- 【主な業務】
- ①アオモリ・ワーケーションに関わる業務(予約受付、行程案作成、体験中のアテンド、その他事務作業)
- ②情報発信(主にAomoLIVE用の動画制作)
- ③その他色々

個人事業(映像撮影・編集など)

- ①SNS用のショート動画制作をメインに撮影・編集業務と配信の仕事をしています。
- ②その他、依頼を受けた業務(イベントスタッフ等)
- ③青森市以外の協力隊及び移住関連のサポート(県庁や県内自治体からの依頼分)

STEP2 検討層へのアプローチ

令和5年度 R5年度実績
アオワケ：約60組
親子：16組
クリエイター：18組

東青移住体験及び各種ワーケーション事業

青森に関心がある方々に、実際に「青森に来て体験してもらおう」ために各種体験事業を実施しています。

- 移住体験
- リモートワーク体験
- クリエイターワーケーション(販売体験)

- 移住体験**：宿泊費無料、最長2泊
東青圏域(青森市、今別町、外ヶ浜町、平内町、蓬田村)に2泊3日で宿泊してもらい生活を体験。※移住を検討している層へ幅広くアプローチ
- ワーケーション体験**：宿泊費無料、交通費・レンタカー助成有り、最長5泊
主に場所を問わず働くことが可能な「リモートワーク人材」に向けたアプローチ。
- クリエイターワーケーション**：宿泊費無料、販売体験
主にハンドメイド作家のクリエイターへアプローチ。青森市内のイベントで実際に販売体験してもらおう。

※各事業共通：宿泊は各自自治体が指定する施設となります。

STEP3 計画層へのアプローチ

各種支援金・助成制度の整備

令和5年度

移住支援制度

暮らしの拠点を移す方へ最大100万円を助成します

- ①移住支援金
・「東京23区内に在住or勤務」に限定
交付額：最大で100万円
(国・県でおこなっている支援制度を活用)
- ②新しい働き方移住支援金
・都内以外でもOK!
交付額：上限25万円
(青森市独自の制度)
- ③リモートワーク活動支援金
・リモートワークに関わる費用補助
交付額：上限36万円
(青森市独自の制度)

令和5年度

STEP3 計画層へのアプローチ

◎移住支援金(国・県でおこなっている支援制度を利用)

移住支援制度

移住前にご相談ください

令和5年度から子どもの加算額を拡充しました

01 青森市移住支援金	単身	60万円	<small>たとえば、親とお子様2人が移住した場合</small> 300万円支給
	世帯	100万円	
		子の加算 拡充100万円/人	

青森市転入前の10年のうち通算5年以上東奥23区内に居住していた、または東奥23区内に通勤していたかなど

◎移住支援金
 東京23区内に過去10年のうち通算5年以上、かつ直近1年以上「居住」または「勤務」していることを条件に、
 転入後に「就業・起業・リモートワーク・関係人口要件のいずれかを満たす場合に最大100万円の移住支援金を交付しています。さらに子の加算で+100万円/人
★額は大きいですが条件がかなり厳しい。

令和5年度

STEP3 計画層へのアプローチ

◎新しい働き方移住支援金・リモートワーク活動支援金
 (青森市独自の支援金制度)

02
新しい働き方移住支援金

単身・世帯 上限 25万円
子の加算 拡充 25万円/人

青森市転入前の5年のうち通算2年以上を要件(東京23区内)に居住し、雇用保険被保険者または個人事業主として働いていたかなど
 対象経費の1/2の額を支給(引越し費、転居費、転居費、住宅ローン、住宅費、生活費、転居費など)

『01青森市移住支援金』及び『02新しい働き方移住支援金』は転入後要件を満たす必要がございます。詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください

03
リモートワーク活動支援金

上限 36万円

01または02の交付決定後かつリモートワーカーまたはクラウドスター
 対象経費の1/2の額を支給(転居費、転居費、転居費、転居費、転居費、転居費、転居費、転居費)

◎新しい働き方移住支援金
 青森県外からの移住であればOKと条件はかなり緩くなっているため、幅広い移住計画層の方々への後押しが可能。(2人以上の家族の引っ越し費用の相場が大体12~20万円くらい)

◎リモートワーク活動支援金
 ①or②の交付が決まっている移住者でかつリモートワーカーの方の coworkingスペースの利用や出社交通費の1/2を補助
 (出社交通費：リモートワーカーでも会社によっては月〇回の出社義務や本社打ち合わせがあったりする)

令和5年度

移住後のケア

◎移住者ネットワークの構築

- ・移住者交流会の実施
- ・移住者の移住後のサポート

参加者は一般の方のため、写真にぼかしを入れております



移住ママ友交流会



跳入交流会

移住者の移住後のケアのため、協力隊員が中心となり交流会などのイベントを実施しております。

- ・人脈の形成(移住者同士、または移住者と現地の方々との繋がり強化)
- ・移住者にしかわからない悩みや不安の共有
- ・地域になじむためのツールとして

他にも、SNSグループを作成して移住者同士で情報交換をおこなっております。

さいごに

◎選ばれる町になるために…

ぜひわが町に！と移住をPRしていたのに
いざ移住したらほったらかし・・・



今はSNSで悪い噂はあっという間に拡散されてしまう世の中です。(いい噂は拡散しにくいのは何故?)

移住した人が「移住してよかった」と思えるように、
 移住した人が他の人に自信をもって移住を勧められるように、

そんな「選ばれる町」になれるよう行政と協力してくれる
 地域の方々と青森市を選んで来てくれた協力隊員で連携して、様々なサポートに取り組んでいます。



4 ～クロストーク～



竹内 紀人氏

(青森中央学院大学 経営法学部 教授)

— 青森市では20代の若者がこの20年で半減しているという記事があったが、具体的にどうということなのか。

竹 ここでいう産業構造というのは、青森市は工業を含む3次産業の比率が高い。港が整備されて、交通の要衝として栄えたところ。そして県庁所在地になった。これが青森市。よくある他の都市のようにモノを作ることには特別な技を持っていたわけでもない。まず、モノを動かす拠点になるということに興味を覚えた人が集まってきて、モノを運ぶ、運ぶためには在庫を置く倉庫がある、小売店に仕分けしていく卸機能が必要になる。そのような順番で発展してきた町なんです。ということは、人と人が顔を合わせて、そんな一人一人の経済効率を決して良くはないけども、人がどんどん集まってくる、モノが動くという、経済の動きと合わせて、浪岡含め青森というところが、食べ物豊富にある。雪の厳しさはあるけども、住むのにはあずまい、そんなに困らない。だから、その、そんなに困らないというところが逆にウィークポイントになっているんですね。

モノを動かす産業というのは、そこに人

が集まってくると自動的にそこにいる人たちにサービスを提供する部分が大きくなってきます。すごい言い方になるが、そんなに危機感を感じなくてもあずましく商売をして暮らしていけるところであつたんですよ。それが、ひとたびギアがある時から人口減少にガタンと変わりました。まず地域の人たちの需要が減ります、国の需要も減ります。でも、そこで本来的に競争というものを取り込んでいける人であれば、他県に売るとか海外に進出するか手段をとっていけるが、残念ながら青森はぬるま湯的な状況の中で幸せに暮らしてきました。もちろん外で活躍している方々もいらっしゃるが、多くは地元の人々の需要に頼る形になってしまっていた。そうになると、一旦人口が減り始めると、口が減るとい所に抗えない状況になるのです。

そこからギアチェンジして、他の口を求めていこうという動きももちろんあります。ですが全体とすれば、もうダメかもしれない、これから先行き見通せないかもしれないみたいな気持ちが大きくなってきているんですね。それが大きな負のスパイラルのようになっているのが今の状況だと考えて

4 ~クロストーク~



おります。それが端的に表れるのが、学校の先生や親御さんたちも悪いんですよ。ここにいてもどうしようもないからあんた(子)は大きくなったら仙台とか東京へ行った方がいいよって言うんですよ。これはもう大変なことですよ。以上です。

— 今の青森市が産業の構造でこうなってきたというのは、他の都市、例えば、函館、北九州、下関というのも、同じような港湾都市だったり物流都市だったりという、同じような感じで、ぬるま湯できたというふうな受け取ってよろしいでしょうか。

㊦ ぬるま湯というのは言い過ぎだと今反省しておりますけども、でも、似たような要素がきつとあるんだと思います。やっぱり似たような産業構造が多々あるわけで、そのような中でもそうならない所もあるんですよ。だとすればそれは、その要因と今人口が極端に減っていることを直接結び付けるエビデンスはないわけですので、想像の範囲は出ないんですけども、やっぱりそこに何らか頑張ってる所とちょっと違う何かがあるのかなと。そういうことでは同じような結果が出ている所には似たような感じ

はあるのかもしれないですね。函館なんかは結構似ていると思います。函館ではかつて北洋漁業と船に関わる鉄鋼業がありました。それがダメになって観光にシフトしわけですけども、色んな漁業と鉄鋼という強みを持ちながら、なぜ今こんなになっちゃったのっていうのは、やっぱり強かったものに寄りかかりすぎたとか、次のところをあまり見てなかったとか。昔であればまさに30万都市ですよ。その需要に黙っておんぶにだっこでやってきたみたいなことはあると思います。

— 一方で先ほどの東奥日報記事で、県内人口の半数を占める旧3市で人口減少が進んでいるという一方で、おいらせ町や六戸町で人口が増えているという、この違いはどのようにお考えでしょうか。

㊦ おいらせ町と六戸町ですね。おいらせ町はご存じの通り、下田、あと百石と合併ですよ。あそこは本当は六戸と一緒にしておいらせ市になるという構想があったんです。色々財政上の物の見方がそれぞれ違ったので2つに分かれましたけども、

要は立地条件としては八戸と三沢をなら

むベッドタウンとしての好条件が最初からあったんですね。これを決定づけたのは1995年下田ショッピングセンターの開設です。これは日本でおそらく初めてです。何も無い陸地にただの道路の交差点のところに、ここにショッピングセンターを作ったら面白いよねとあって、それで人を寄せる機能ができてしまった。センターができるとき、日本中から商業関係の人が視察に来たんですよ。それくらい有名なところですよ。今ではあのような施設は当たり前ですけども、当時の形として、町の作り方としては画期的でした。そういう商業施設、色んな、観覧車が無くなったとか店が入れかわったりとか時代の中で色々ありましたけども、あれだけのショッピングセンターがあるというのは、買い物便利、車で八戸でも三沢でも簡単に行ける。三沢に行けるなら十和田にも行ける。三沢に行けるなら直接的ではないかもしれないけども、六ヶ所方面の人とモノの動きにも絡んでくるということもある。そういう意味では県南のベッドタウンとして確固たる地位を確立したというのはよくわかる事象。なおかつプラスして、あの2つの町はかなり早くから、



若者の定住に力を入れてました。やはり、それぞれに農業だったり色んな強みを持っているけども、町の行く先というのはそれぞれ心配していたわけです。それが他の所よりは早く若者に目を向けていた。例えば六戸だと、アパート代2万円を超える部分に最大2万円をあげる(毎月)(3万5千円だと1万5千円の補助)、じゃあ20分で八戸通えるなら、八戸住むよりもこっちの方がいいじゃん、しかもメイプルタウンだしという風になる。ということですよ。そういった政策的な部分もあると思います。

―― 立地条件(国道沿いとか八戸、三沢に近いなど)でうまくベッドタウン化したということなので、浪岡地区、青森、弘前、黒石、五所川原にすぐいけるというこの土地を見たときには、同じようなイメージを皆さんお持ちかと思いますが、浪岡という地区はおいらせ六戸のようなベッドタウンになりうるとはお思いでしょうか。

〇 なる気があればなれると思います。これは本当に、私は可能性はつねにゼロではないと思っていますので。先ほど会長からお話があったと思いますが、弘前に近い、青森

にも近い、何よりそこに来る飛行機の入りに口になっている。これは大きいと思います。使えると思います。ただ、言えるのは浪岡だけの話じゃなくて、青森県と考えたときに、絶対的な移動距離のハンディ(時間を含む)など、このマイナス面はいかんともしがたいですよ。だから、青森のどこかだったり浪岡だったりとかが、長野市とか千葉市のどこかになろうとしても、それはかなりハードル高いです。だから違うものを求めているかないといけないです。

―― なるほど。移住先として青森全体を考えたとき、全国的には移住先の人気地域、今先生が言われた、やはり東京から近い方が人気があるというのはありますが、それ以外に長野だったり広島だったり人気の地域があります、その辺と青森との違いはどうでしょうか。

〇 これはさっき申し上げたとおり時間と距離だと思えます。浪岡は東京から新幹線で1時間程度で行けるところだったら、もう勝つてると思います。だけどそうじゃないのは、やはり電車で3時間、飛行機でも2時間ほどかかるとなると、その距離はハン

ディになります。あとは雪やそれにまつわる冬のイメージはなかなか払拭できないですよ。テレビでは酸ヶ湯の映像がガンガン流されているわけですから。



4 ~クロストーク~



石岡 有佳子 氏

(artstudio tete 代表)

— 自己紹介がてら県外からUターンした
きっかけは。

☐ きっかけは東日本大震災。震災があつて、なぜ自分は県外で一人で頑張っているのか考えるようになった。おばあちゃんやおかあさんのことを思い出し寂しい気持ちになったのがきっかけ。そこで青森県立美術館でエデュケーターという専門職に就き、鑑賞教育を普及する事業に携わることになった。

青森は美術を学ぶ大学が無く、宮城県仙台市の大学に通うことに。そこで非常に便利であったのは、青森では一時間一本のバスが仙台では1分2分待つとバスが来るところ。

そして地下鉄があり、最初はおいや色々な人が乗っているので慣れなかったが、やっぱり便利さの方が勝った。時間にとらわれず余裕ができた。青森では行く一時間前に家事などやることやって、さあ待つといったときに、雪でそこから一時間遅れますで、なかなかたどり着けない目的地。マイナス面ではあるが、今大人になってみると、持て余した時間は有意義に使えていれば、とても重要なのではないかと思う。

結局は、他県に行つて便利さの中にはせわしなさがあるのではないか。待たなくてもできるというのはやるが増えていく。やりたいことも増やしていく。実現できるのは夢に近づいているという感覚になるが、自分の余裕のある時間を削っているのではないか。逆に青森は何もないよね。何もないときどうしますか？ぼーっとしてまず、近所のおばさんとお話してまず、何あったの、おいしい豆腐の料理ってなに、あそこのお店が安くて…などコミュニケーションやゆとりの時間で考えることって増えますよね。そんな風に考える時間が自分を豊かにしているのかなと思います。

青森の印象は、やっぱり県外は色々なものが発展していて、潤沢に物があつて、青森には何もなくて。ないところを寂しがるよりはポジティブに考えた方が良いと思う。一番マイナスな面は、これは無理だよねダメだよね失敗するよね、もし続かなかつたらどうするの…など、やりたいことができない、まず始めることができないことがあるのではないか。逆にやってみたらどうだったの、面白そうだね、近所でサークルができたりクラブ活動ができたり、輪



がなくなる可能性がある。やっている人が高齢化してきた、若い人にバトンタッチしたい時には、若い人がいないというのが今の現状。若い人達を受け入れる受け皿がないと難しいと思う。目立っている人を見て近寄りがたいと言うのではなく。例えばこの会場の方たちのなかで紫の髪色の人がいませんよね、ピンクの髪色の人がいませんよね、良いんですよ。私の周りには好きなことをやっている人が多くてですね、爪は綺麗ですし髪も美容室で整えている方が多いです。やりたいことをやって良いんです。自分を着飾って自信をつけて、やりたいことをやるのが大事です。それを旦那さんが応援してくれたら一番ですね。まずは女性を褒めていただいて、応援していただけたらと。

—— やりたいことをなかなかスタートできない、物事を始められないというのは、青森県人の特性でしょうか。それとも、何かしらの社会的な関係でしょうか。

☐ やってる人が身近にいないのかと。私はドローンを飛ばしている自己紹介がありました。一見ドローンを飛ばしそうな見た

目ではないですよ。よく知っている人も言われます。なぜやろうと思ったかという、きっかけは教育が大好きで、ドローンは子どもたちも喜んで飛ばしますよね。お父さん世代だとラジコンなどハマった人も多いと思いますが、自分が操縦できた面白いものの延長線上で良いと思うんです。例えば、そういうものに直面したときに、目指す人、目指すもの、どうやって入っていったら良いのかという知識が情報提供として少ないのかなと思います。私の場合は何でも聞いて勉強したいお金がかかるので自分で食べなくてもお金をかける。自分でいくらか自己投資できるのか。投資だけじゃなくどれくらいのリターン（知識）があるのか。実現する環境がどれだけあるのか見えてないと難しいのかなと。

—— やってみたいけど誰も動いてくれない、周りが反応してくれないと厳しい県外で暮らすとわかるが、同じことやってる人はたくさんいるんですよ。お金がないけどやってみたい大学生も多い。それを否定しない、やってみなよという環境があるのと、それをインターネットや変わっているものを売っているお店だとか、話を聞いてくれる

人や大人も多い。

—— 石岡さんは北海道で何haもドローンで農薬散布している方ですので、農薬散布に必要な方はお声がけいただければ。

☐ 無線の免許、インストラクターまで様々、あとは農薬管理指導士など。好きなものとはことん極めたい人です。そのうち小さい自作のドローンを作ろうかと思ってます。

—— そのほかにもりんごの剪定枝が余っている。その活用方法を考えたりしていますね。竹内先生も巻き込んで。

ビジネスチャンスが目の前でキラキラしているんですよ。りんごの枝がどうやって化けていくのか、むしろ産業にして県外の方向けなど、桜の木を使ったりモチーフにして色々やっている方はたくさんいる。千葉にも高級和紙作りの方がいたり。極めれば何でも産業になります。でもリットメットはもちろんあるので、デメリットをどうやってカバーするのが大事。やれるやれないではなく、やれるためにどうするのが大事。

4 ~クロストーク~



— 子育てのしやすさ、教育環境として青森はどうか。

☐ 子育てしやすいかと思ったら、まだまだですね。他県ですと、フレキシブル（色んな時間帯で働く人が増えてきました）な方向に保育する環境があります。あとはワーケーション向け保育（リモートワークで働く人向け）が他県ではあります。いきなり来た人たちが困らないように受け皿が多いです。例えば学力よりは体験する機会をもっと増やしたいですね。自分の子どもが3歳くらいするとき、子供向けのワークショップがある時はどんどん参加させました。今の時代青森でできないことは県外に行けばいいが、自分の身近で習慣化されたように体験していくためには、体験できる場所をもっと拡充していく必要があるのではないか。



黒竹 健司氏

（青森市移住コーディネーター）

— 移住する前（千葉）の青森のイメージと、実際に移住してみて良かった点、良かったことなど。

☒ 千葉にいた時は、青森が雪で大変だというニュースが出ると、酸ヶ湯の映像が流れるんです。積雪も1m、2m、あとは市街地の映像が流れるんですが、絶対雪溜まってる場所撮ってるでしょというような映像が流れますよね。あとは車が無いと生活できないイメージですが、実際に浪岡に住んでみると、メディアの誇大表現だったなと思います。冬はちゃんと除雪入りますし、公民館周辺、スーパー、警察署、郵便局、市役所もあるし揃っているのだから生活する分には車要らないじゃんと思いました。いうほど田舎だと交通も不便で……ありますが、思ってるイメージと実際住んでみてまるで違うなと思いました。

プラスの面でいうと、時間にカツカツすることが無くなりました。電車も時間が決まっていますよ。一時間に一本だと決まっていますのでその時間に合わせるしかないのですよね。千葉に住んでると、5分で1本出るんですよ。早く片付けて1本でも早い電車に乗ろうと考えるんですけど、逆に電



車の本数が無いのでそこに合わせて準備すればいいやという思考が切り替わるんですよ。そして余った時間の使い方を考えるようになりました。気持ちにすぐくゆとりができたというのがプラスですね。

もともと車屋で働いていたので、より一層感じるのですが、渋滞が無いですよ。千葉では5km先のスーパーに行くのに20分かかったりするんですよ。自転車で行った方がいいんじゃないかと思うほど渋滞が多い。青森はそういうのが無いので、どこでも軽く移動できますし、そういった部分はストレスフリーで、住んでみてわかったプラスの面ですね。

マイナスの面は、強いていうならお店が閉まるのが早いですね。千葉だと24時間が普通で、例えばガソリンスタンドだと、お台場で夜景見て帰りに夜中の1時にガソリン入れて帰ってというのができていたが、青森だと9時10時にしまっちゃうのでできない。

ただ今までの生活が不健康なだけで、青森に来て健全な生活のためには良いのかなと思いました。



全体討論 (会場の方からの質問)

・移住されてくるかたへの支援金について

問 青森市にある企業へ就職するなら支援

するが、他の市へ就職するなら控えてくださいなど、そういう縛りはあるか。無ければ将来的に制限がかかる可能性があるか。

答 国の支援金を利用して就職する場合、県

がホームページに記載している企業であれば支援金は貰える。住む予定の自治体の企業でなくても、県が登録している企業であれば支援金は貰える。青森市の制度の場合は、原資が青森市民の税金であるので、基本的には市内企業に就職するか、市内で起業する場合に限られる。

問 そこを広域的にクリアできれば良いと

思う。例えば青森市のあの企業よりも弘前市のこの会社が素晴らしいから、弘前市の会社に就職したい場合もあるはずで、その点を考えれば不利になるのでは。

答 一番良いのは県が支援金を出すという

制度にすると解決できる。秋田県はそれをやっているが、青森県はやっていない。市町村で競争みたいに支援金を出していますが、そもそも県でやってくれたら、県内のどこに就職してもどこに住んでも貰えるという制度になるが、今そうなってい

4 ～クロストーク～



ないので、今後広域的な連携ができるかというのは市町村長で相談するか県でやってもらうかということになると思います。

問 リモートで仕事してる人も取り込めたらい（東京・大阪など）

答 リモートワーカーとして移住してきた場合は支援金が貰えます。青森に住みながら東京の仕事しようが大阪の仕事しようが、リモートワーカーとして移住してきた場合は貰うことができます。ただ、この国の制度は東京からの移住限定なので、大阪などほかの大都市から移住してきた場合は対象外なので支援金は貰えない。ただ、青森市独自の制度として、リモートワーカーの方が仙台や札幌から移住してきた場合は支援金を出しています。もっと使い勝手が良くなるように頑張っていたきたいと思います。

問 若者の移住に関して空き家の活用など何か考えているか。

答 新築も良いが、空き家の活用も大事と思う。

浪岡地区の空き家が256戸あります。

倒壊しそうな特定空き家から、住めるのに空き家になっていくものも多いです。空き家をリノベーションして住居活用するための研究を竹内先生含め春からやっていたかと思っています。また、予算が通ると、IQ青森でやっているような支援、来年春から空き家をリノベーションして県外の人に体験してもらおう施設にも着手する予定です。

問 今年は雪が少ないけども、雪が多い時、屋根の雪下ろしなどはどう考えているか。

答 人の手が入らない場合、空き家もすぐ倒壊するのは。

問 我々が借りる空き家などは雪下ろしなど管理はするが、個人の空き家すべてを行政でやるわけではないので、管理は所有者の方にやってもらう必要がありますが、その雪によって早く潰れてしまったり使えなくなる前に、なるべくリフォームして早く次の人に使ってもらおうような研究をやっていくものであります。

問 昨年の10月に移住のことで長野市に視察に行ってきました。今後の課題として

何がありませんかと聞きましたら、まず、地域の人達とのコミュニケーション、若者、特に女性の若い人達が少ない、ということ聞きしました。青森市ではどうでしょうか。

答 長野ほど移住者が来ていないというところがありますが、コミュニケーションという部分でいいますと、アンケート結果（浪岡中） 浪岡の魅力1位自然景観 2位おいしいりんご 3位人が優しい がありますが、これは特徴的ではないかと思う。

黒竹さんもそうですが、前協力隊の清水さんもそうでしたが、青森に遊びに来た時





にすごく優しくされたからという理由がありました。その人のやさしさ、絆があるのが青森、特に浪岡の良さではないか。このコミュニケーションという部分に関しては、地域の方たちと交流することで解決していくのではないか。

●移住者として意見（黒竹）

移住された方たちへのケアの方法として、地元の方と移住された方がつながる場として青森市では計画立てて色々やっております。これは実際に協力隊として移住した方が、自分がこういうケアがほしいということベースとして作っているのですね、今現在青森市内のことが多いが、収穫体験で地元の方と等、色々やっていきたいので、浪岡の皆さんにもぜひ協力いただければと思います。

●女性の意見（石岡）

誰も知らないところに住むわけですが、何が困ったかというところ、コミュニケーションですね。同世代のコミュニケーションがとれないと、モノを知ることができない、どこに行ったら楽しいかなど、プライ

ベートを充実させるといって、同世代がないと話しづらかった。それが県外に出たとき困ったこと。ただ、話しかけると皆さん親切だったので助かった部分もあつたが、男性の方だったり、自分から話すことが苦手な方は難しいかもしれない。そこに住んでコミュニティを築かなきゃいけないけれども、人と話すのが苦手な方は出づらいというのがあるかもしれない。ワーケーションに参加する方などは元気な方や話すことが好きな人が多いので、自分から発信する人話せる人は課題がないかと思えます。

●（竹内教授）

私は学生と一緒にワーケーションをやっているが、入り口、ひよっとしたら将来移住者につながるかもしれないかすかな可能性を感じますが、そういう人達があるいは観光でくる人で浪岡を初めて訪

れた人などを見ると、今はもう景色や美味しい物ではない。ターゲットは人なんです。あの人に会いたい、あの人のいる浪岡だったら安心して暮らせそう。それが流行りの言葉でいうと多様性と包摂、誰も取りこぼさない。景色とか自然など日本中どこにでもあるものは東京に近いところと競争しても勝てないが、人では勝てる。浪岡も人では勝つことができる。

浪岡に人を呼ぶためには、ヒントが少しずつ出たと思います。来年またこの場で聞きたいと思えます。

なみおか移住フォーラム

～浪岡をくらしの拠点に～

編 集	なみおか未来創造会議
発 行 日	2024年3月31日
資 料	2024年2月10日 浪岡中央公民館1階大ホールにて開催 なみおか移住フォーラムのまとめ
編集協力	津軽新報記載記事他
印 刷	株式会社 津軽新報社 青森県黒石市前町48

